

# 道の「たまもの」

その逆に、都から下っていく。落ちて行く。  
の影響を与え、育んだことは間違ひ無い。

## 久留米藩領図屏風 久留米市教育委員会所蔵

この屏風は久留米藩主の、領内「かくあれかし」との  
思いを凝縮した、豪華な作品。  
筆者・制作年代とも詳らかではないが  
内容的には江戸初期のごく古い姿をとどめている。  
六曲一双(二つ一組)の片方で  
一面の黄金色は、領内の豊作の稻穂をあらわし  
その中に筑後川をはじめ幾筋の川が流れ  
画面を引き締めている。  
ここに描かれている街道、宿、村は現代にもその名を残し  
往時の様子を偲ぶことができる。  
黄金色の中に散在する村々からは  
豊かな実りの中での、安穏な人々の生活を祈る  
領主の心がうかがわれる。

## のこる多くの歴史遺産

### ■お茶屋(本陣)跡地は現羽犬塚小学校敷地

御茶屋(本陣)は大名宿ともいわれ、  
参勤交代の諸大名、重臣、幕府要人等の  
宿泊・休憩に利用された。羽犬塚宿

の御茶屋跡は、現在の羽犬塚小学校の  
敷地で、玄関前の蘇鉄や運動場周囲の  
木積・楠等の大木は当時のままの遺物。

### ■科学的で堅固な施設に守られた羽犬塚宿

羽犬塚宿には、出入り口の両側に防衛  
・検査のために構口(かまえぐち)・枠  
形といった堅固な施設があった。特に

七代有馬頼衡は、羽犬塚に滞在する  
ことが多く、相当、厳重な警護が敷かれて、とくに、南方からの突入に備えた。



■羽犬塚宿町略図(大正期測量図から復元)



■現在の旧羽犬塚宿付近



平成20年度 地域資源∞全国展開プロジェクト

# 久留米leftrightarrow筑後leftrightarrowみやま 薩摩街道マップ

歩いてみませんか  
あの篠姫も通った悠久の道



# 筑後は薩摩街

薩摩側から北へ、都へと上っていく。  
そのどちらの人々が、この地に何らか

## 旧「羽犬塚宿」を中心に

### ■太宰府と並ぶ天満宮を有する菅公縁りの地

水田天満宮は太宰府天満宮と御縁深い。菅原道真公のご靈魂を祀り、太宰府天満宮の重要な荘園「水田の荘」の守護神で九州第二天満宮。

御本殿は寛文12年(1672年)に再建され、昭和36年に福岡県文化財に指定された。また、平成7年にも再建が行われ、信仰を集めている。

### ■壇の浦合戦以降も続いた最後の源平合戦

山ノ井にある白滝神社は別称「平家堂」。壇の浦の源平の戦いに敗れ、九州奥地へ逃走を計った平家の残党は、この地で源氏軍に追討され、

多数の戦死者を出した。その慰靈のためにこの堂は建立されたとされる。神社は戦時中には武神として出征兵士の守護神とされた。



### ■豊臣秀吉の島津遠征時に由縁の「羽犬」の名

羽犬塚という風変わりな地名の由来については、いくつかの伝説があるが、その一つが、昔この地に羽を持つ猛犬が隠れ住んでいて、この頃島津遠征のためにこの地を通過した秀吉に退治された。この

犬のために塚を造って弔ったといいうもの。また、この犬は秀吉が連れてきたもので、この宿場町で病氣になって死に、嘆き悲しむ秀吉のために家来達が立派な塚を建立したのが由来という説もある。

### ■あの篠姫も通った西国大名、参勤交代の道

薩摩街道は江戸時代の参勤交代の道だった。宿場町が連なり、島津、松井、相楽、立花、有馬の諸公の参勤

交代は、この街道を通った。あの篠姫も、薩摩からこの街道を北上して江戸へ向かったとされる。

### ■文豪・漱石、山頭火も羽犬塚・船小屋にゆかり

明治29年、文豪・夏目漱石が新婚の妻・鏡子とともに船小屋温泉に立ち寄っている。このときには、ひやひやと雲が来るなり温泉の

二階」という句碑が船小屋鉱泉場の北側に建っている。また、種田山頭火も昭和5年に羽犬塚宿に滞在して、市内に5基の歌碑がある。